

提出年月日	2021 年 4 月 8 日
-------	----------------

日本原燃株式会社

廃棄物埋設施設の許可基準規則に対する 適合性

安全審査 整理資料

【凡例】

「廃棄物埋設施設の許可基準規則に対する適合性 安全審査 整理資料(2021年3月22日提出版)」に対し、追記又は削除した部分は、赤字にて追記又は見え消し表示を実施。

構 成

本資料の構成は、以下のとおり。

第三条 安全機能を有する施設の地盤

第五条 津波による損傷の防止

第七条 火災等による損傷の防止

第八条 遮蔽等

第九条 異常時の放射線障害の防止

第十条 廃棄物埋設地のうち第一号及び第三号

第十条 廃棄物埋設地のうち第四号(廃止措置の開始後の評価)

第十一条 放射線管理施設

第十二条 監視測定設備

第十三条 廃棄施設

第十四条 予備電源

第十五条 通信連絡設備等

提出年月日	2021年4月8日
日本原燃株式会社	

廃棄物埋設施設の許可基準規則に対する 適合性

安全審査 整理資料

第三条：安全機能を有する施設の地盤

目 次

1. 基本方針
2. 安全機能を有する施設の地盤
 2. 1 事業所敷地の地形
 2. 2 廃棄物埋設地設置位置及びその付近の地質・地質構造及び地盤

1. 基本方針

廃棄物埋設地は、空中写真判読、地質調査、標準貫入試験等の実施結果を基に以下を確認した地盤に設置する。

- 自重及び操業時の荷重等に加え、耐震重要度分類Cクラスの施設に求められる地震力が作用した場合においても、接地圧に対する十分な支持性能を有すること
- 支持地盤は N 値 50 以上の岩盤であり、敷地内には断層活動に伴う変動地形がないことから、~~地震発生に伴う地殻変動によって生じる支持地盤の傾斜及び撓み並びに地震発生に伴う構築物間の不等沈下、液状化及び揺すり込み沈下の周辺地盤の変状変形が生じるおそれがないこと~~
- 将来活動する可能性のある断層等の露頭がなく、変位が生じるおそれがないこと
- 放射性物質の移行上の短絡経路となるような断層及び緩い砂層等の高透水部(水みち)がないこと

2. 安全機能を有する施設の地盤

2. 1 事業所敷地の地形

敷地造成前の地形を第 1 図に、敷地付近の地形面区分図を第 2 図に示す。

敷地内にみられる主な沢は、敷地西部の 3 条の沢(東から順に南の沢、西の沢及びその他 1 条の沢)及び敷地中央部の沢(以下「中央沢」という。)である。敷地が位置する台地は、中央沢により北東側と南西側に二分される。北東側の台地は標高 30m～60m 程度、南西側の台地は標高 30m～40m 程度である。廃棄物埋設地は、北東側の台地に設置する。また、1 号廃棄物埋設地周辺の北側から北西側の範囲は標高 50m～60m 程度と標高が高く、1 号廃棄物埋設地の南側から東側にかけて分布する中位段丘面(M₁面：酸素同位体ステージ(以下「MIS」という。)5e に対比)よりも 1 段高い高位段丘面(H₅面：MIS7 に対比)が分布する。

また、空中写真判読及び地表地質調査において、西の沢以西及び尾駮沼付近を除いた台地上には断層活動に伴う変動地形、地すべり地形、地すべりのおそれがある急斜面及び陥没の発生した形跡はない。

廃棄物埋設地は、1 号廃棄物埋設地の東側に位置し、標高約 41m～46m に造成されている。

2. 2 廃棄物埋設地設置位置及びその付近の地質・地質構造及び地盤

(i) 調査内容

a. 地質調査

敷地の地質・地質構造について、直接試料を得るとともに、ボーリング孔を利用した原位置試験を実施するために、敷地内においてボーリング調査を実施した。

ボーリングは、ロータリ型ボーリングマシンを使用し、掘削孔径 76mm のオールコアボーリングとした。

採取したボーリングコアについて詳細な観察を行い、地質柱状図を作成した。

また、トレンチ調査及び地表地質調査の結果とあわせて地質平面図及び地質断面図を作成し、敷地内の基礎地盤の地質特性及び地質構造について検討した。

なお、廃棄物埋設地及びその付近におけるボーリングコアの採取率は100%である。廃棄物埋設地及びその付近の鷹架層のR. Q. D. は平均約98.9%であり、鷹架層は亀裂及び節理が少ない岩盤である。廃棄物埋設地及びその付近の調査位置を第3図に示す。

b. 標準貫入試験

廃棄物埋設地及びその付近における鷹架層の風化部の分布状況及び地盤の強度を把握し、廃棄物埋設地の設計及び施工の基礎資料を得るため、標準貫入試験を実施した。試験は、JIS A 1219に準拠し、ハンマーを自由落下させ標準貫入試験用サンプルを30cm打ち込むのに要する打撃回数(N値)を測定する方法で実施した。

c. 土質試験

廃棄物埋設地及びその付近の第四紀層の物理特性を明らかにするため、土質試験を実施した。

d. 岩石試験

廃棄物埋設地及びその付近の鷹架層中部層の軽石凝灰岩及び砂質軽石凝灰岩の物理特性及び力学特性を明らかにするため、岩石試験を実施した。

(ii) 調査結果

a. 廃棄物埋設地設置位置及びその付近の地質

廃棄物埋設地及びその付近の地質層序表を第1表に示す。また、廃棄物埋設地及びその付近の地質平面図を第4図～第6図に示す。さらに、廃棄物埋設地及びその付近でのボーリング調査から得られた主要な地質柱状図を第7図～第10図に示す。

廃棄物埋設地及びその付近の地質は、新第三系中新統の鷹架層、第四系更新統の中位段丘堆積層及び火山灰層並びに第四紀完新統の盛土からなる。

鷹架層は、層相及び層序から下部層、中部層及び上部層の3層

に区分され、廃棄物埋設地及びその付近には中部層が分布する。中部層は、粗粒砂岩層、軽石凝灰岩層及び軽石混り砂岩層に細分されるが、これらのうち廃棄物埋設地及びその付近には、主に粗粒砂岩層と軽石凝灰岩層が分布する。

粗粒砂岩層は、主に貝化石の細片を多く含み葉理構造が発達する中～粗粒砂岩からなり、上部では軽石を含む。

軽石凝灰岩層は、主に径数 mm～数 cm の軽石を多く含む凝灰岩等からなり、下位から漸移的に軽石質砂岩、砂質軽石凝灰岩及び軽石凝灰岩が分布する。

段丘堆積層は、台地部に広く分布しており、主に石英粒子からなる淘汰の良い中粒砂ないし粗粒砂からなり、一部に礫及びシルトを挟み、下位の鷹架層を不整合に覆う。

火山灰層は、段丘堆積層を覆って広く分布し、主に褐色の粘土質火山灰からなる。

なお、火山灰層中には、オレンジ軽石(約 17 万年前)及び町田・新井(2011)⁽¹⁾による洞爺火山灰(11.2 万年前～11.5 万年前)が挟まれる。オレンジ軽石及び洞爺火山灰は、段丘堆積層や近傍火山灰との層序関係、火山灰の性状、火山ガラスの屈折率及び鉱物組成の文献値との類似性から対比し、同定した。

盛土は、主に段丘堆積層の砂及び火山灰層の粘土質火山灰の掘削土からなる。

b. 廃棄物埋設地設置位置及びその付近の地質構造

廃棄物埋設地及びその付近の鷹架層中には、NE-SW 走向の f-a 断層、ENE-WSW～E-W 走向の sf-e 断層及び E-W 走向の sf-b(Ⅱ)断層の 3 条の断層が認められる。

f-a 断層は、走向が N30° ～55° E で、70° ～90° 南東に傾斜する正断層センスの断層である。断層面は、固結・密着している部分及び鏡肌を有する部分が認められる。断層沿いには、断層を境して接する岩石が混在した部分が幅 10cm～160cm にわたって認められるが、この部分は固結しており、周囲の岩石と同程度の硬さ

を有している。また、第 11 図に示すトレンチ調査結果によれば、f-a 断層は、鷹架層を不整合に覆って分布する中位段丘堆積層には変位・変形を与えていない。

sf-e 断層は、走向が N50° ~80° E で、40° ~90° 南に傾斜している逆断層センスの断層である。断層面はゆ着しており、断層沿いには、断層を境して接する岩石が破砕を伴わずに混在した部分が幅 4cm~33cm にわたって認められるが、この部分は固結し、周囲の岩石と同程度の硬さを有している。また、第 12 図に示すトレンチ調査結果によれば、sf-e 断層は、鷹架層を不整合に覆って分布する高位段丘堆積層には変位・変形を与えていない。

さらに、第 6 図に示すように廃棄物埋設地の南方にも、E-W 走向で北傾斜かつ逆断層センスの sf-b(Ⅱ)断層が認められるが、sf-e 断層と同様に断層面はゆ着しており、ボーリングコアで確認される断層面は固結し、周囲の岩石と同程度の硬さを有している。

c. 標準貫入試験結果

廃棄物埋設地及びその付近のボーリング孔で実施した標準貫入試験によると、表層部を除き、鷹架層は N 値が 50 以上の岩盤である。

d. 土質試験結果

廃棄物埋設地及びその付近の盛土、火山灰層並びに段丘堆積層のボーリングコアから採取した試料による湿潤密度、含水比、土粒子の密度及び間隙率の結果を第 2 表に示す。

e. 岩石試験結果

廃棄物埋設地及びその付近の鷹架層中部層の軽石凝灰岩並びに砂質軽石凝灰岩のボーリングコアから採取した試料による物理試験、圧裂試験及び三軸圧縮試験の結果を第 3 表に示す。

(iii) 廃棄物埋設地設置地盤の安定性評価

a. 設置地盤の支持力

埋設設備の設置地盤は、第 5 図及び第 6 図に示すとおり、鷹架層中部層の軽石凝灰岩層である。埋設設備は、地質柱状図に示す

とおり標準貫入試験によるN値が50以上の岩盤に設置する。また、埋設設備の周囲に覆土があると、地盤の変形を抑制する上載荷重として作用するため、地盤の支持力の評価は、埋設設備による荷重が最大かつ覆土施工前の状態で行う。

設置地盤の支持力及び埋設設備の荷重を第4表に示す。設置地盤の支持性能を検討するに当たり、埋設設備の基礎形式は直接基礎であることから、土木構造物の直接基礎の場合に適用される最新の知見として、「道路橋示方書・同解説、IV下部構造編」(日本道路協会、平成29年11月)⁽²⁾(以下「道示IV」という。)及び建築基準法に基づく国土交通省告示第千百十三号「地盤の許容応力度及び基礎ぐいの許容支持力を求めるための方法等を定める件」(以下「国土交通省告示第千百十三号」という。)を用いた。

「国土交通省告示第千百十三号」に基づく許容応力度は、岩石試験結果を用いて求められ、軽石凝灰岩層軽石凝灰岩が 2.3MN/m^2 、軽石凝灰岩層砂質軽石凝灰岩が 13.1MN/m^2 である。一方、「道示IV」⁽²⁾に基づく地盤反力度の制限値は、軟岩における耐荷性能の照査の制限値として 0.9MN/m^2 である。

設置地盤の支持性能は、岩石試験結果から計算した許容応力度と「道示IV」⁽²⁾に示す地盤反力度の制限値を確認した結果、地盤反力度の制限値においても、埋設設備による荷重(0.24MN/m^2)に対して十分な支持力を有している。

以上より、埋設設備の設置地盤は、埋設設備による荷重に対して十分な支持力を有している。

b. 地盤の変形に対する評価

地盤の変形は、地震発生に伴う地殻変動によって生じる支持地盤の傾斜及び撓み並びに地震発生に伴う構築物間の不等沈下、液化化及び揺すり込み沈下の周辺地盤の変状による影響がないことを確認する。廃棄物埋設地周辺地盤の変形のうち地盤の傾斜及び撓みについては、空中写真判読及び地質調査結果から、敷地及び敷地周辺に分布する断層として出戸西方断層が挙げられる。出戸

西方断層に起因する変動地形は断層近傍のみで認められ、敷地内には認められないことから、出戸西方断層による支持地盤の傾斜及び撓みといった変形の影響はないと評価した。

廃棄物埋設地の設置地盤は、N 値 50 以上の岩盤であり、十分な強度を持っている。また、設置地盤以深も N 値 50 以上の岩盤と同等の岩盤が連続していることから、地震発生に伴う建物・構築物間の不等沈下、液状化及び揺すり込み沈下による**変形周辺地盤の変状**の影響はないと評価した。

以上より、廃棄物埋設地は、地盤の変形に対して安全機能が損なわれるおそれはない。

c. 地盤の変位に対する評価

廃棄物埋設地内に断層は認められなかったが、廃棄物埋設地付近の鷹架層中には f-a 断層、sf-e 断層及び sf-b(Ⅱ)断層が認められる。廃棄物埋設地付近の断層に関しては、ボーリング調査及びトレンチ調査結果から、少なくとも後期更新世以降に活動した断層ではない。

また、廃棄物埋設地周辺の地すべりの影響を検討した結果、空中写真判読により、西の沢以西及び尾駁沼付近を除いた台地上には、地すべり地形、地すべりのおそれがある急斜面及び陥没の発生した形跡がある地形は判読されない。さらに、廃棄物埋設地付近での地質調査結果から、地すべり面や地層の乱れは確認されないことから、廃棄物埋設地の支持地盤まで及ぶ地すべりはないと評価した。

以上より、廃棄物埋設地の設置地盤は、変位が生ずるおそれはない。

参考文献

- (1) 町田洋、新井房夫(2011)：新編 火山灰アトラス[日本列島とその周辺]、東京大学出版会
- (2) 公益社団法人 日本道路協会(平成 29 年)：道路橋示方書(IV下部構造編)・同解説

第1表 廃棄物埋設地及びその付近の地質層序表

地質時代			地 層 名	記号	主な層相		
新 代	第四紀	完新世	盛 土	f1	砂、粘土質火山灰		
		更新世	後期	火 山 灰 層	lm	粘土質火山灰	
			中期	中位段丘堆積層	M1	中粒砂ないし粗粒砂	
	第三紀	中新世	中期	鷹架層中部層	軽石混り砂岩層	T _{2ps}	礫質砂岩 砂岩・泥岩互層 砂質軽石凝灰岩 軽石混り砂岩
					軽石凝灰岩層	T _{2pt}	軽石凝灰岩 砂質軽石凝灰岩 軽石質砂岩
					粗粒砂岩層	T _{2cs}	砂岩 粗粒砂岩

注) 1 ~~~~~ は、不整合関係を示す

第2表 土質試験結果(盛土及び第四紀層)

地層	湿潤密度 (g/cm ³)	含水比 (%)	土粒子の密度 (g/cm ³)	間隙率 (%)
盛土	1.79	26.2	2.72	47.9
火山灰層	1.54	58.1	2.68	62.7
段丘堆積層	1.79	29.4	2.66	48.1

第3表 岩石試験結果(鷹架層)

地層		物理試験	圧裂試験		三軸圧縮試験	
		湿潤密度 (g/cm ³)	引張強度 σ_t (MPa)	せん断強度定数 τ_R (MPa)	粘着力 c (MPa)	内部摩擦角 φ (°)
鷹架層 中部層 軽石 凝灰岩層 (T ₂ pt)	軽石 凝灰岩	1.59	0.57	0.80	1.13	8.4
	砂質軽石 凝灰岩	1.70	0.81	1.44	1.36	27.2

第4表 設置地盤の支持力

地層		許容応力度*1 (MN/m ²)	地盤反力度の 制限値*2 (MN/m ²)	埋設設備の 接地圧*3 (MN/m ²)
鷹架層中部層 軽石凝灰岩層 (T ₂ pt)	軽石 凝灰岩	2.3	0.9	0.24
	砂質軽石 凝灰岩	13.1	0.9	

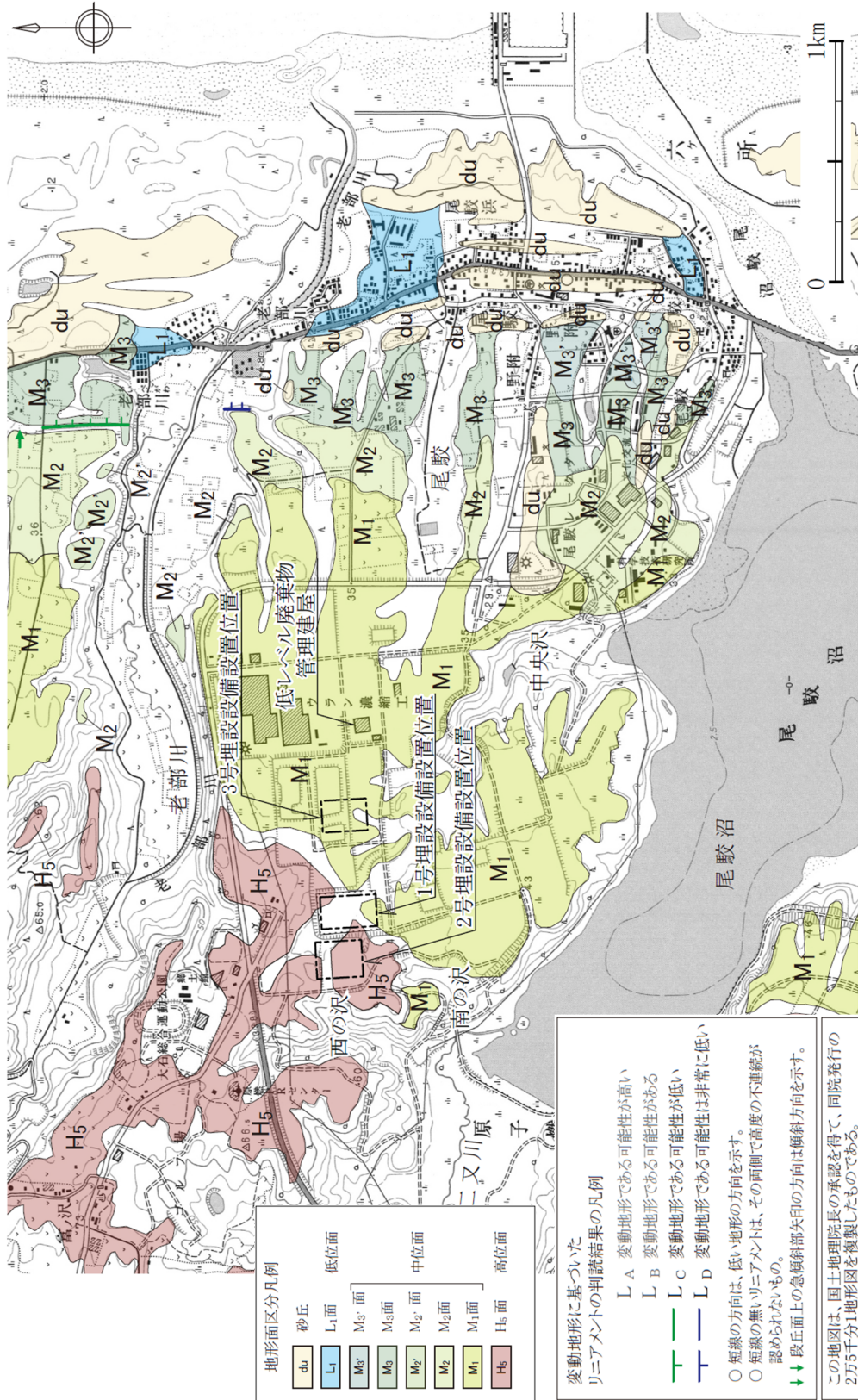
*1：許容応力度については、「国土交通省告示第千百十三号」第二(一)式を用いて算出した。

*2：地盤反力度の制限値については、「道示IV」⁽²⁾表-9.5.5に示される値を用いた。

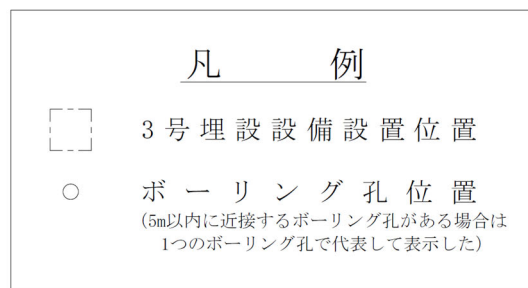
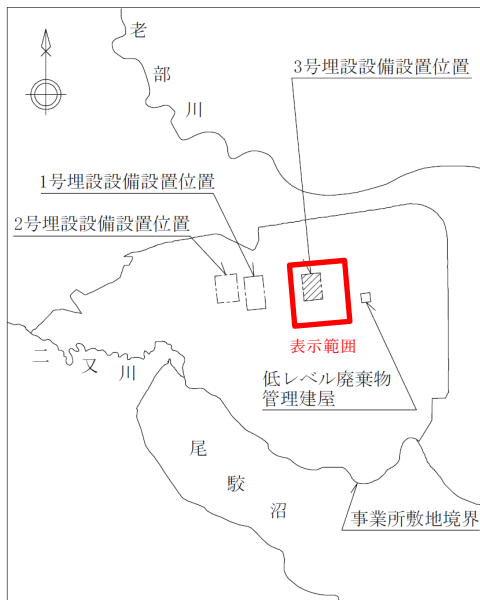
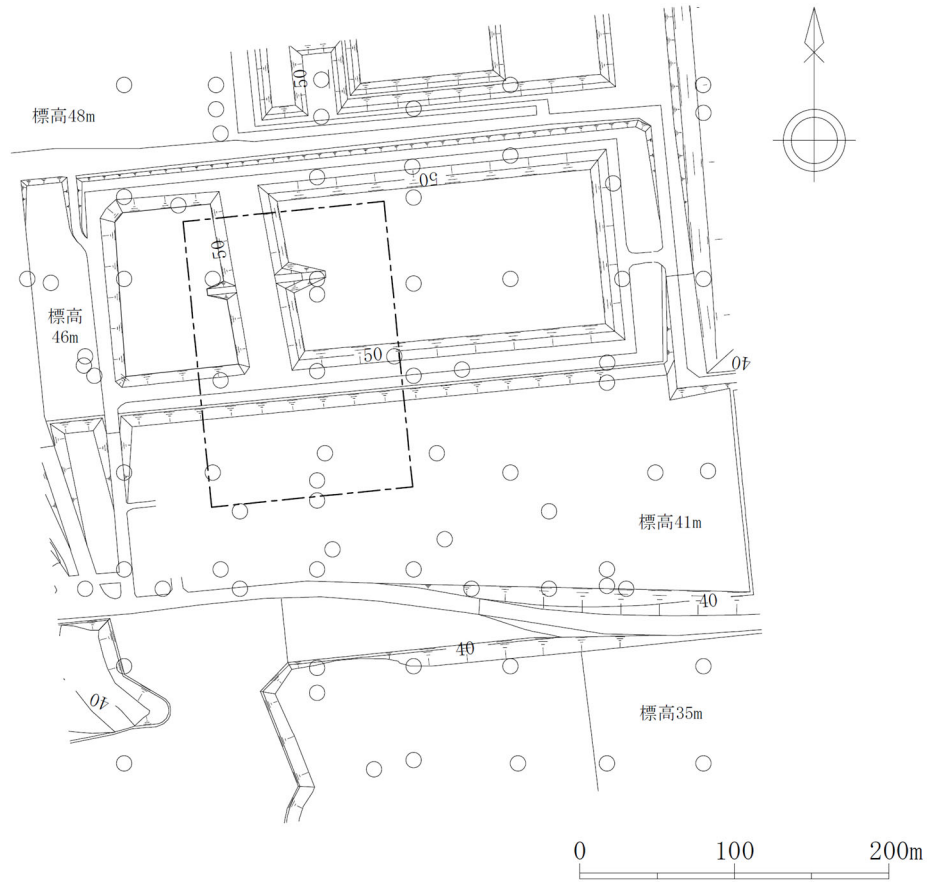
*3：埋設設備の接地圧については、作業中の荷重として自重、地震、風及び積雪を考慮した。



第1図 事業所敷地造成前の地形

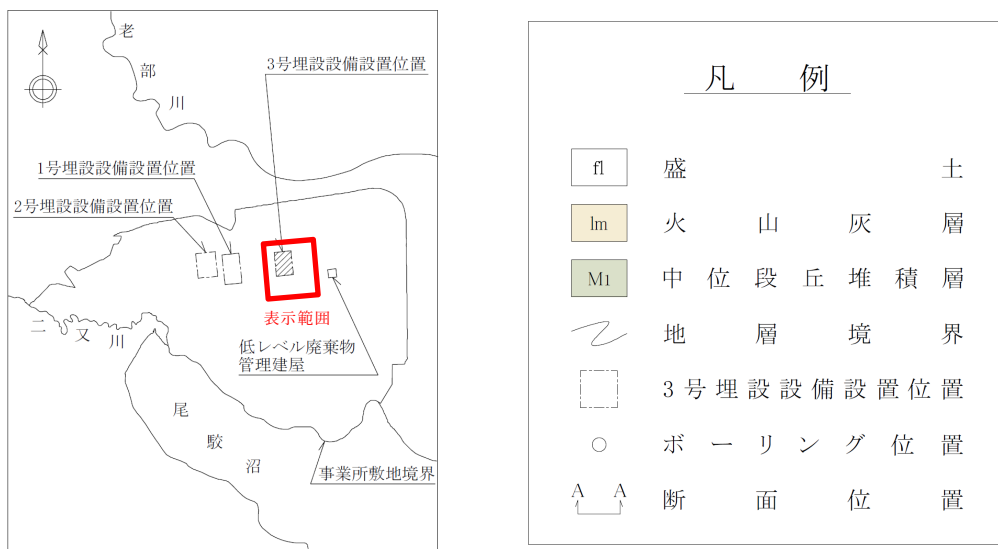
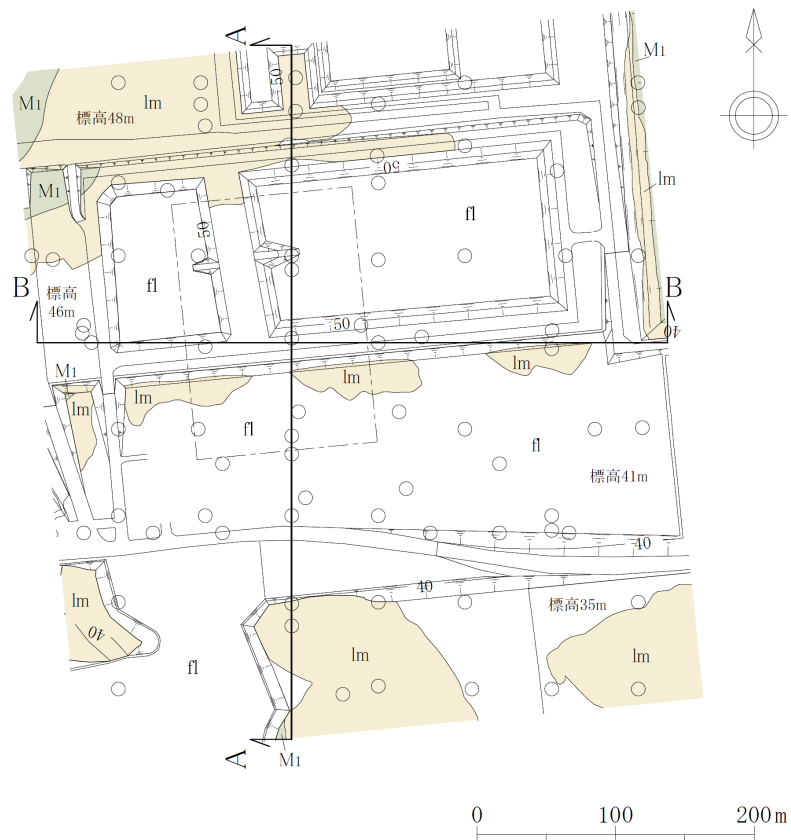


第2図 事業所敷地付近の地形面区分図



表示範囲の位置図

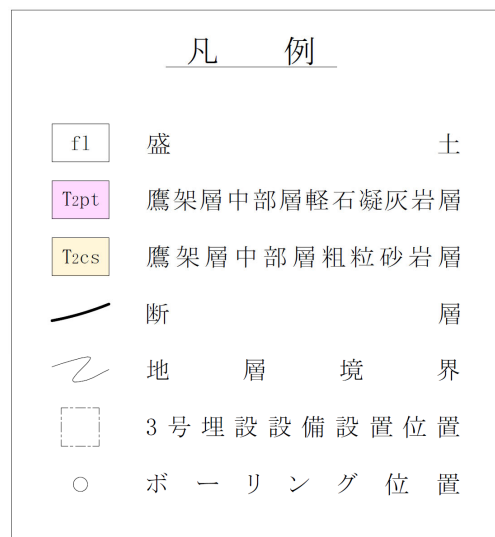
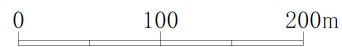
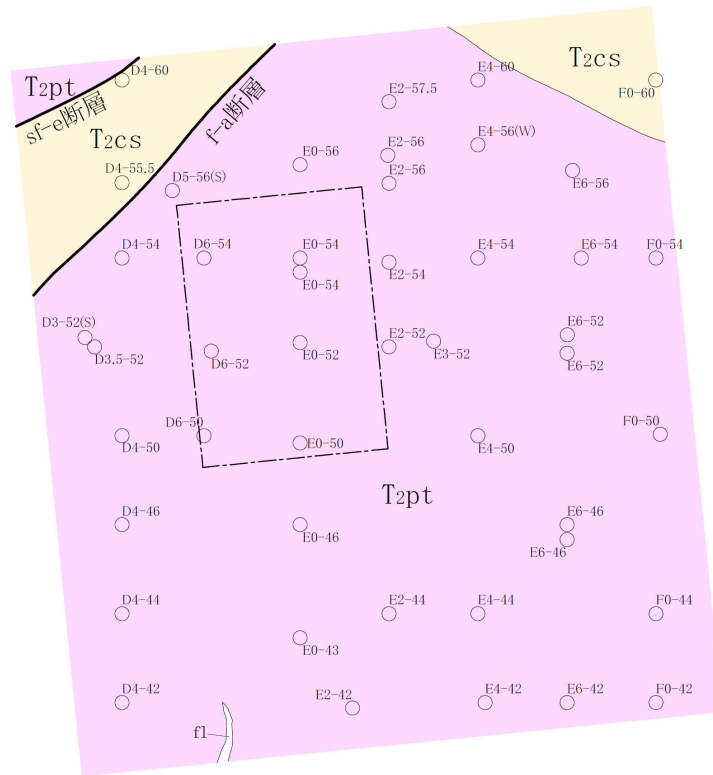
第3図 廃棄物埋設地及びその付近の調査位置図



表示範囲の位置図

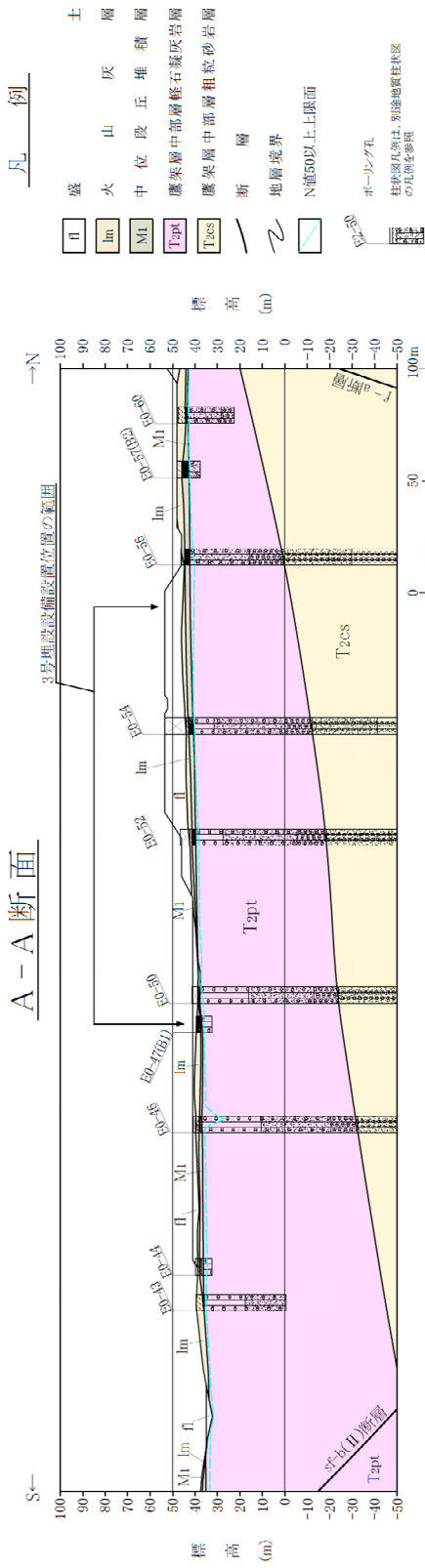
第4図 廃棄物埋設地及びその付近の地質平面図*1

*1：A-A 側線及びB-B 側線は第6図の断面作成位置を示す。



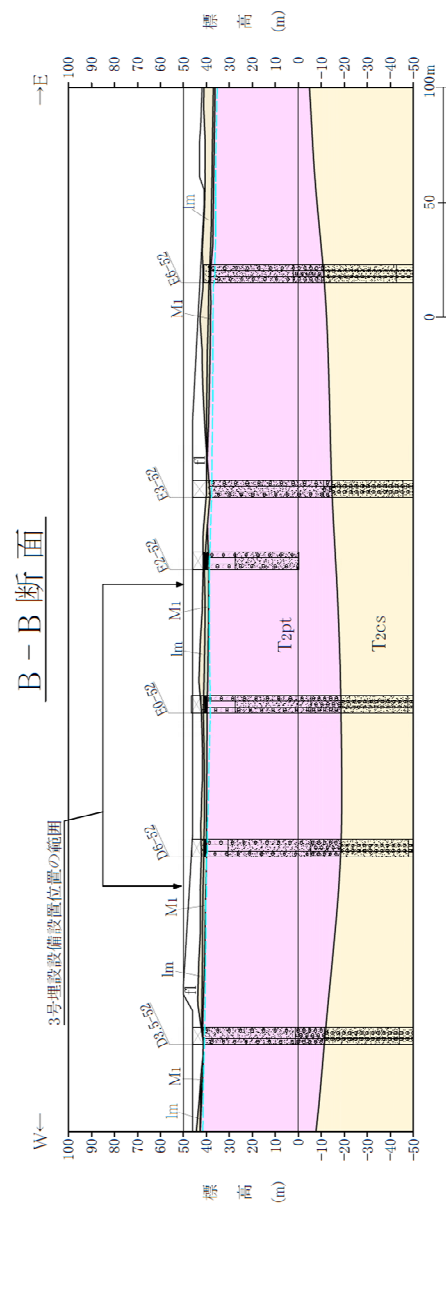
表示範囲の位置図

第 5 図 廃棄物埋設地及びその付近の地質水平断面図(標高 22m)



柱状図凡例

- 盛土
- 第四紀層
- 火山灰
- 砂
- 鷹架層
- 軽石凝灰岩
- 砂質軽石凝灰岩
- 軽石質砂岩
- 砂
- 粗粒砂岩



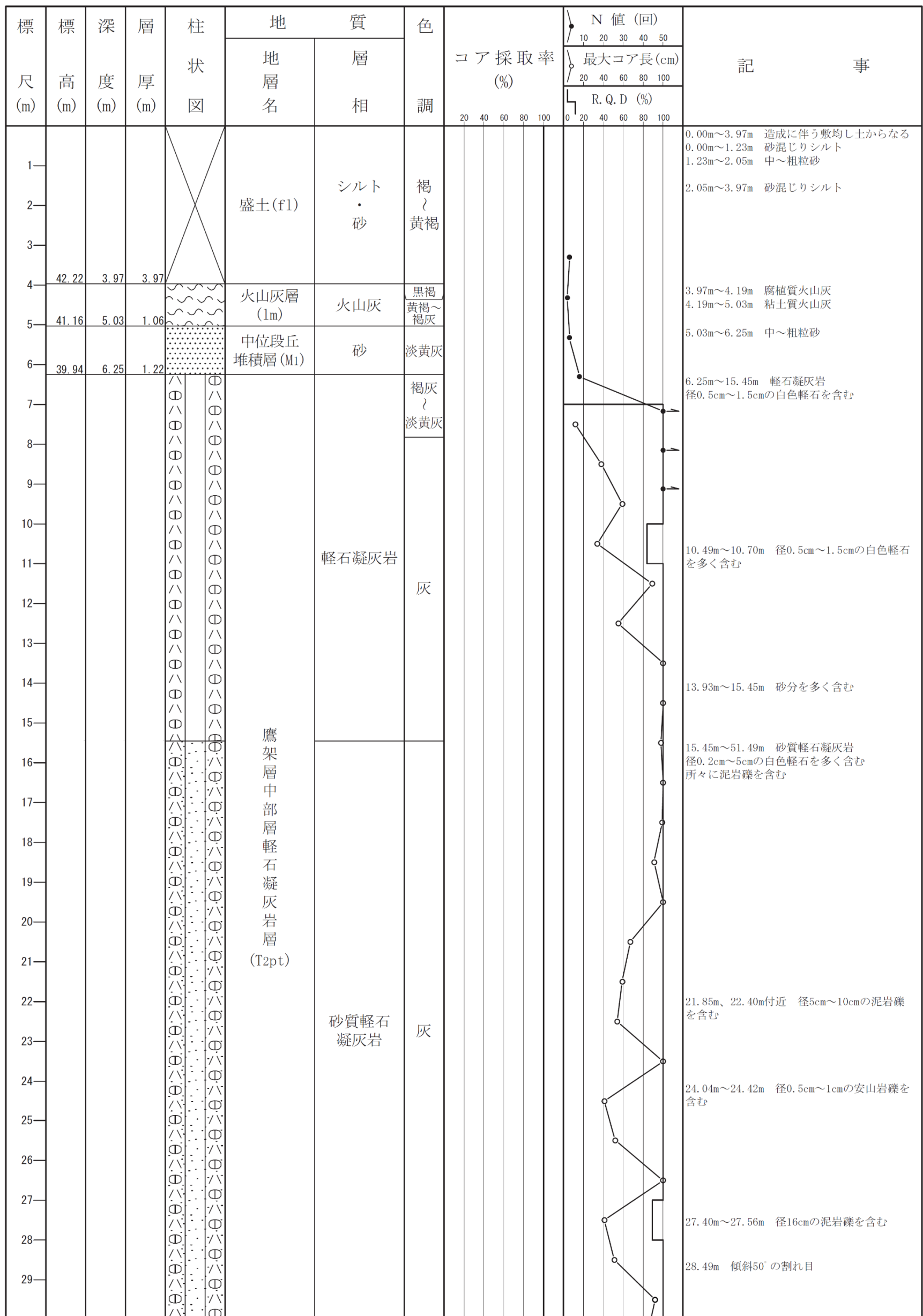
第6図 廃棄物埋設地及びその付近の地質断面図(上段：南北断面、下段：東西断面)*1

*1：南北断面及び東西断面作成位置は第4図に示す。

孔名 D6-52

孔口標高 46.19m

掘削深度 G.L. -104.00m



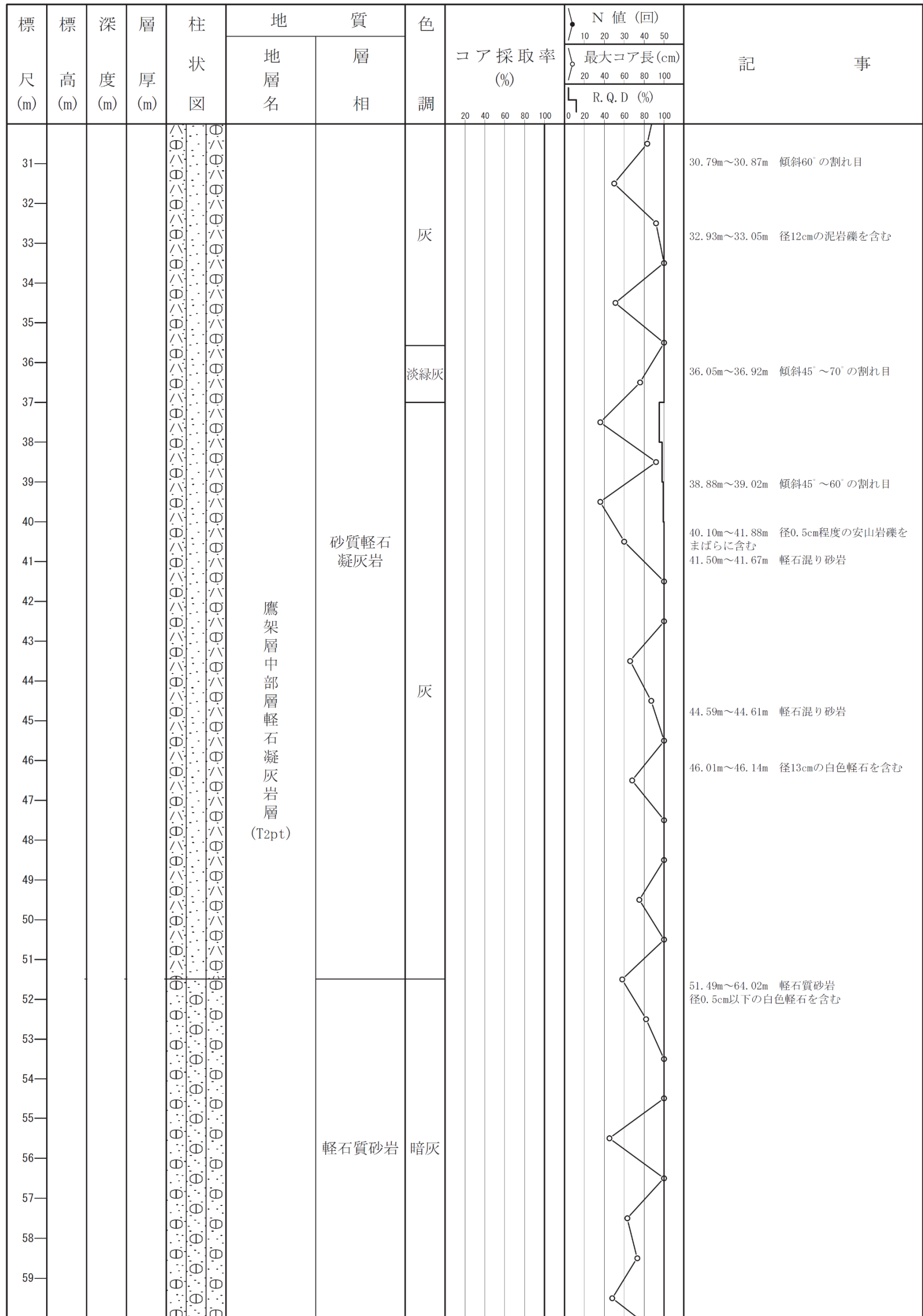
注1: 標準貫入試験は別孔で実施した。

第7図 地質柱状図(1/4) (D6-52 孔 : 深度 0m~30m)

孔名 D6-52

孔口標高 46.19m

掘削深度 G.L. -104.00m

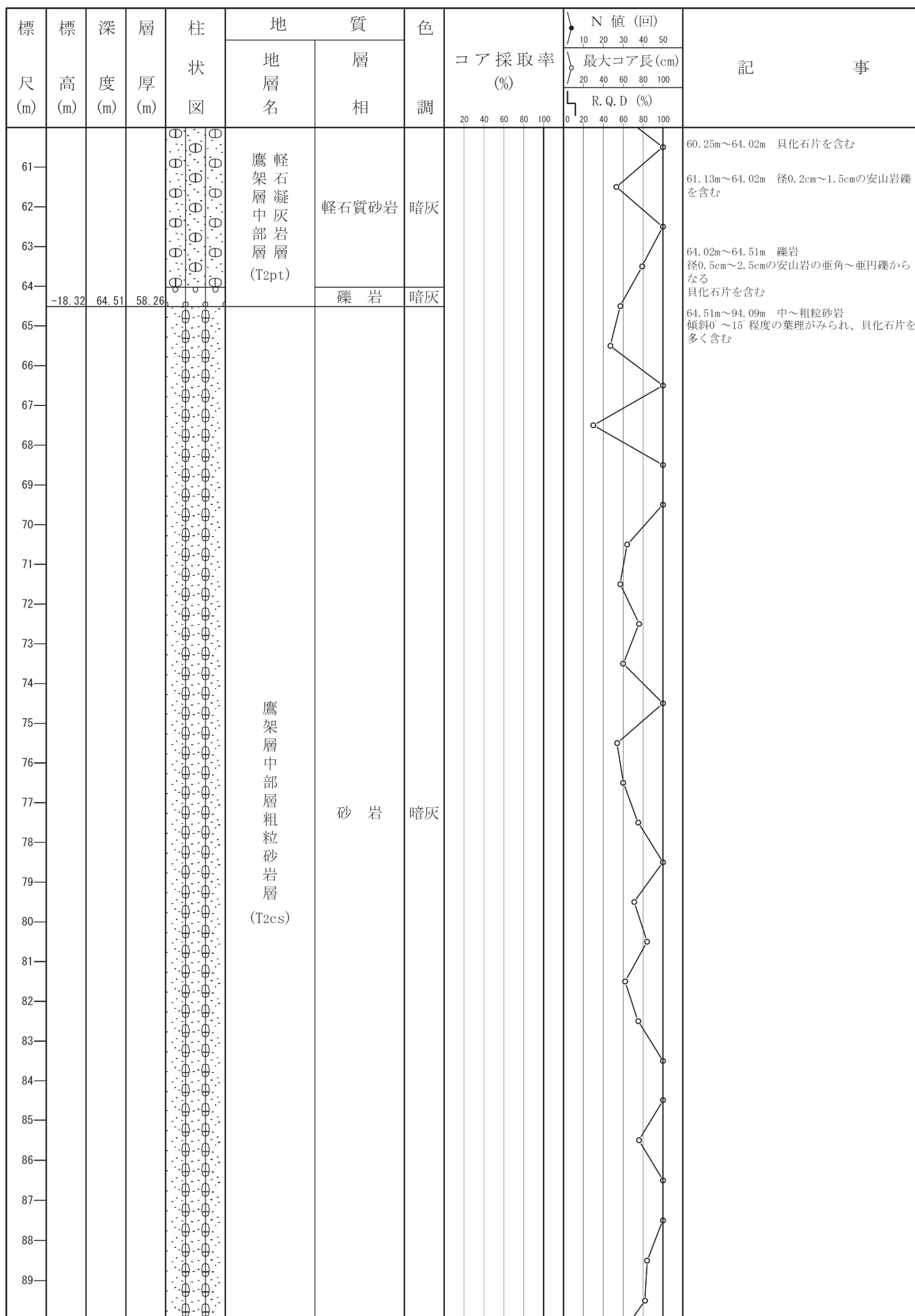


第7図 地質柱状図(2/4) (D6-52孔: 深度30m~60m)

孔名 D6-52

孔口標高 46.19m

掘削深度 G.L. -104.00m

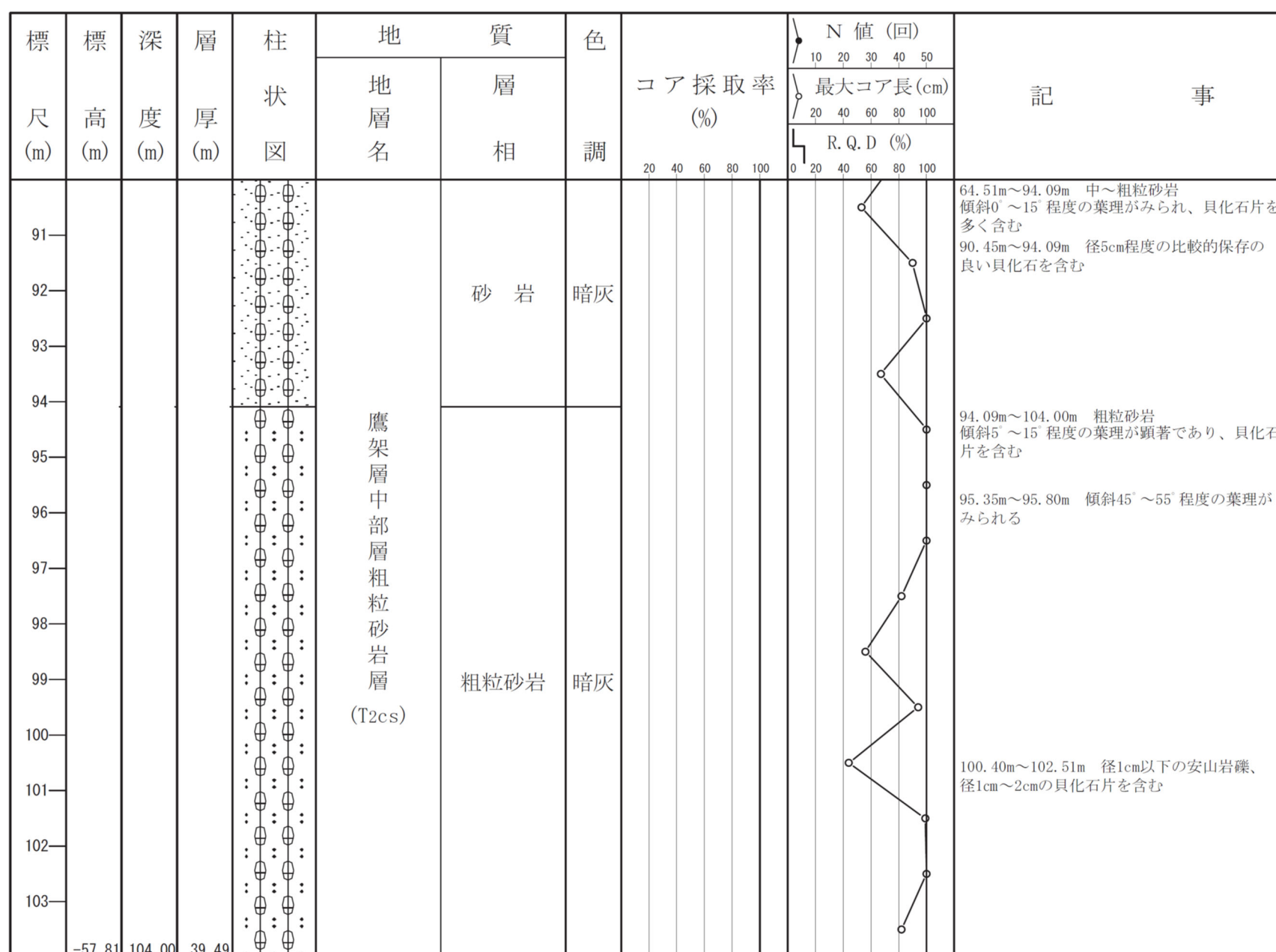


第7図 地質柱状図(3/4) (D6-52孔 : 深度60m~90m)

孔名 D6-52

孔口標高 46.19m

掘削深度 G.L. -104.00m

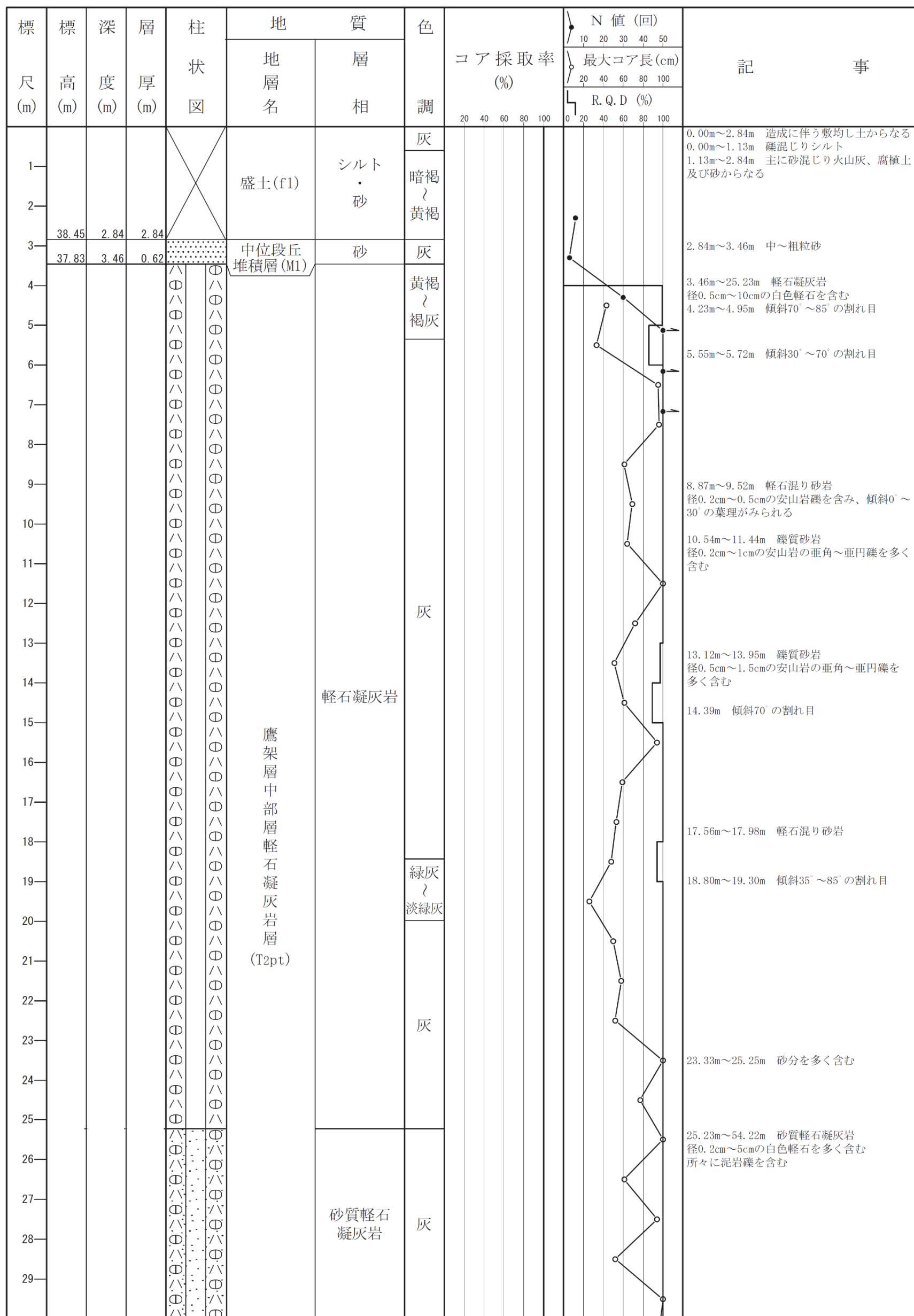


第7図 地質柱状図(4/4) (D6-52 孔 : 深度 90m~104m)

孔名 E0-50

孔口標高 41.29m

掘削深度 G.L. -99.00m



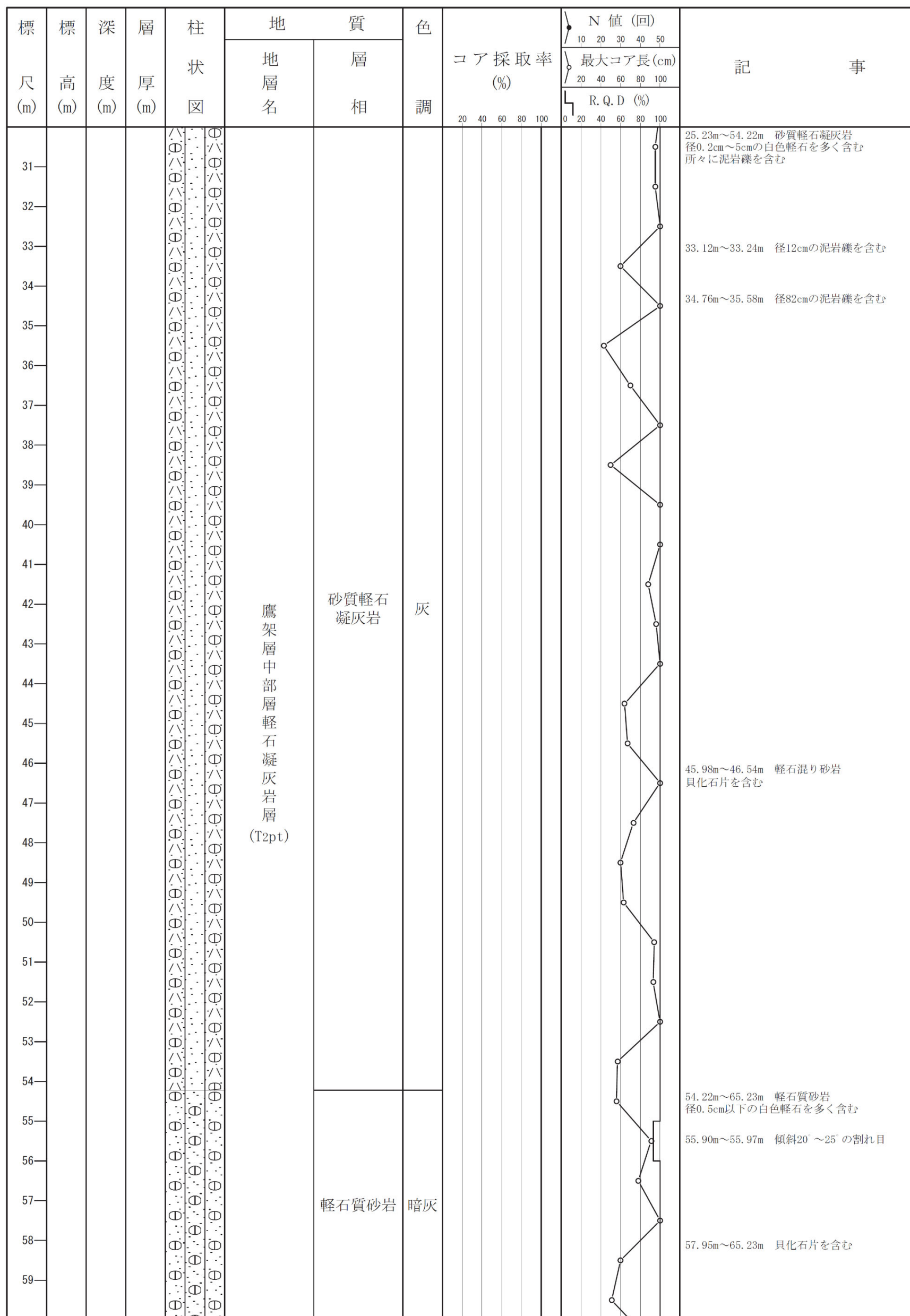
注1:標準貫入試験は別孔で実施した。

第8図 地質柱状図(1/4)(E0-50孔:深度0m~30m)

孔名 E0-50

孔口標高 41.29m

掘削深度 G.L. -99.00m

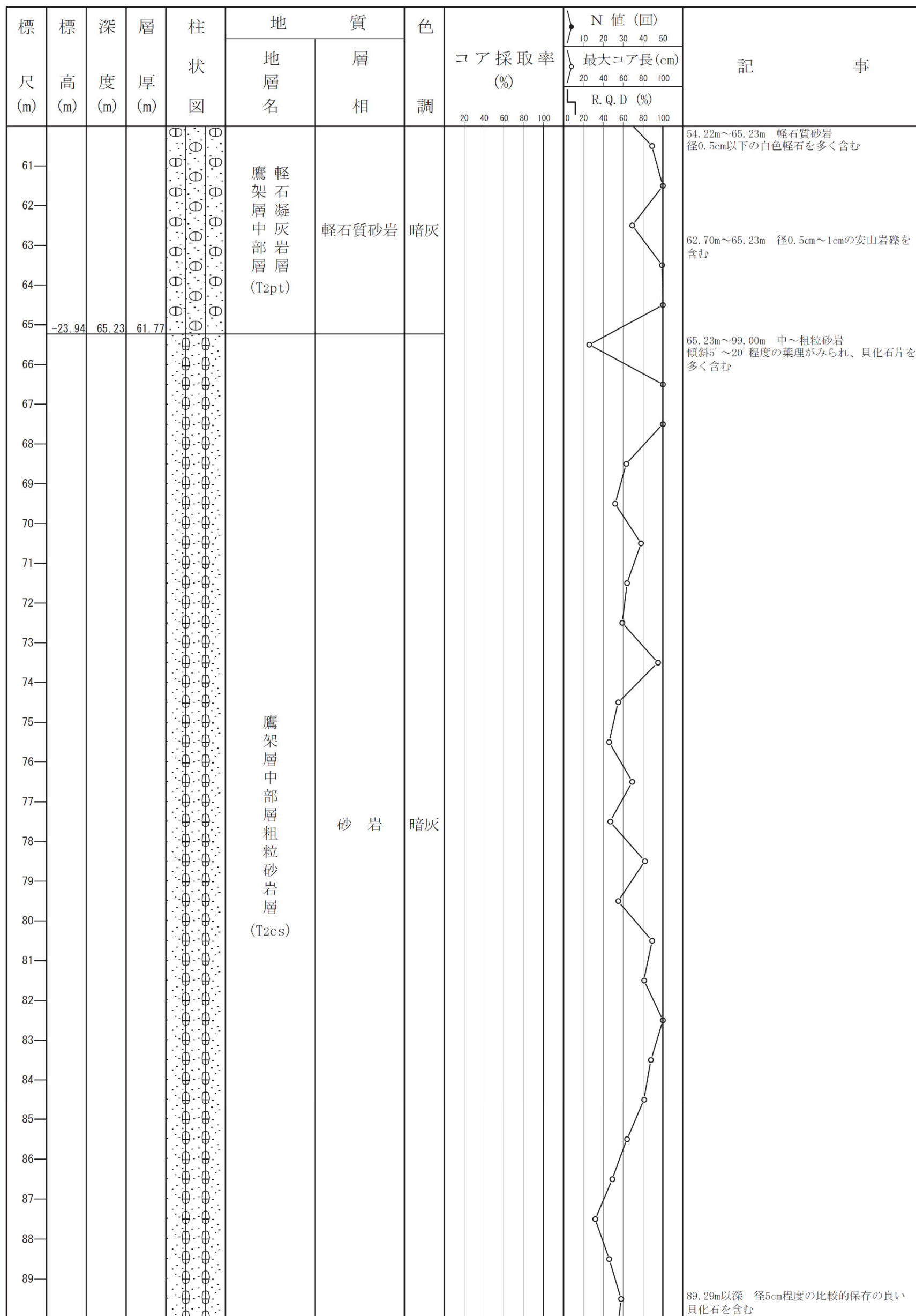


第8図 地質柱状図(2/4) (E0-50孔: 深度30m~60m)

孔名 E0-50

孔口標高 41.29m

掘削深度 G.L. -99.00m



第8図 地質柱状図(3/4) (E0-50孔：深度60m~90m)

孔名 E0-50

孔口標高 41.29m

掘削深度 G.L. -99.00m

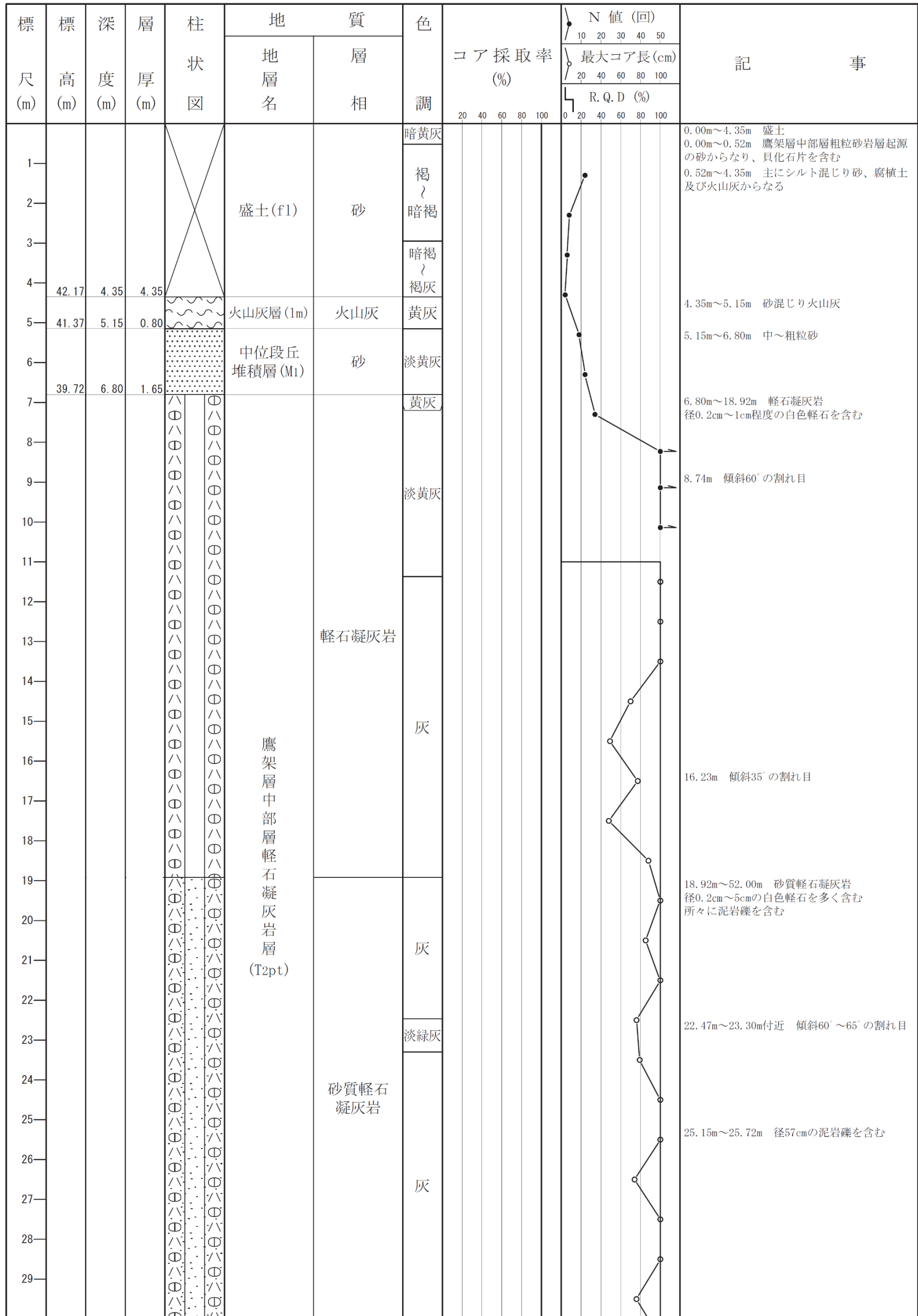
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	柱状図	地質		色調	コア採取率 (%)	N 値 (回)		記事	
					地層名	層相			10 20 30 40 50	最大コア長 (cm)		
								20 40 60 80 100	0 20 40 60 80 100	R. Q. D (%)		
91					鷹架層中部層粗粒砂岩層 (T2cs)	砂岩	暗灰				65.23m~99.00m 中~粗粒砂岩 傾斜5°~20°程度の葉理がみられ、貝化石片を多く含む 89.29m以深 径5cm程度の比較的保存の良い貝化石を含む	
92												
93												
94												
95												
96												
97												
98												
	-57.71	99.00	33.77									

第8図 地質柱状図(4/4) (E0-50 孔 : 深度 90m~99m)

孔名 E0-52

孔口標高 46.52m

掘削深度 G.L. -174.00m

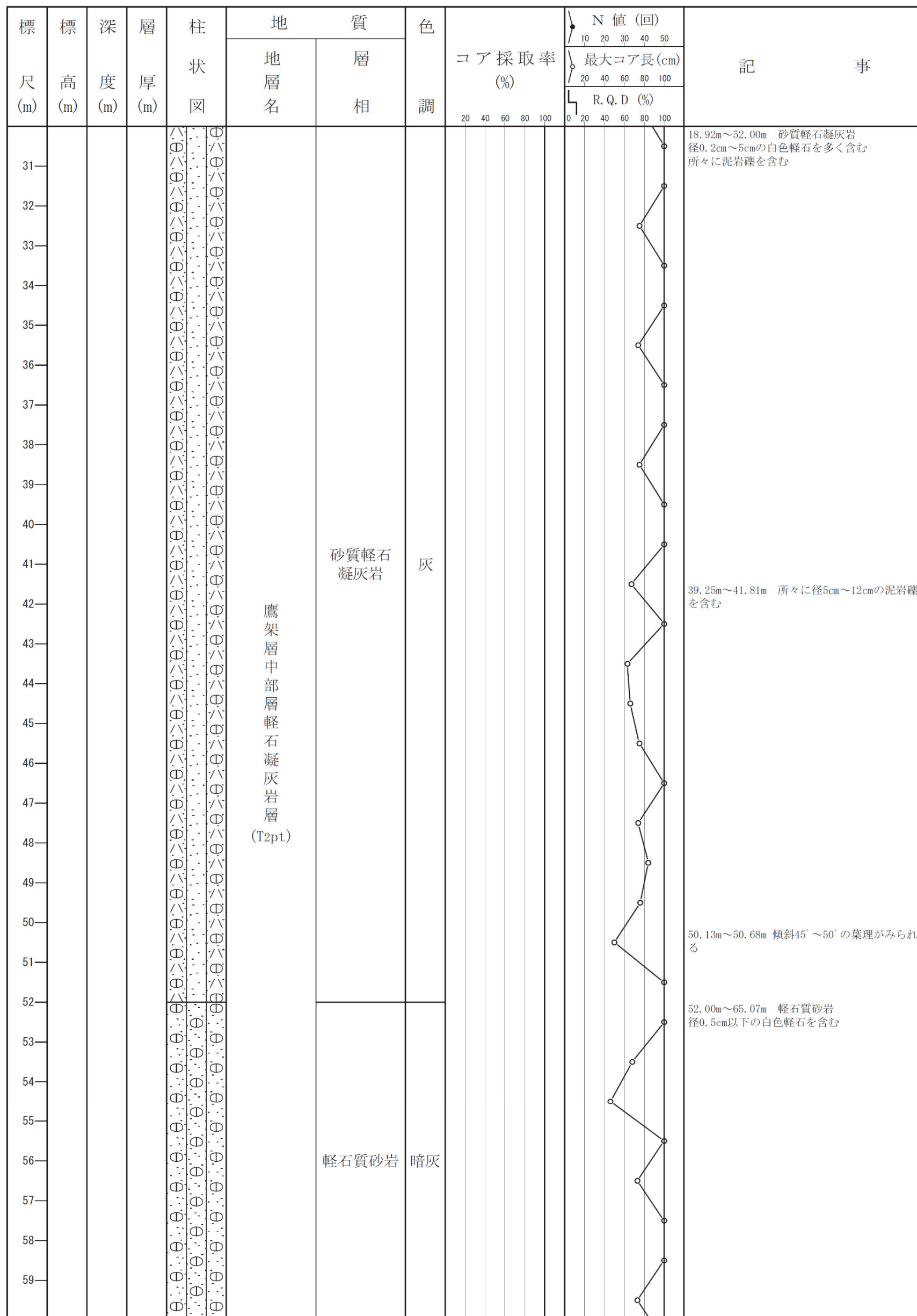


第9図 地質柱状図(1/6) (E0-52孔 : 深度 0m~30m)

孔名 E0-52

孔口標高 46.52m

掘削深度 G.L. -174.00m

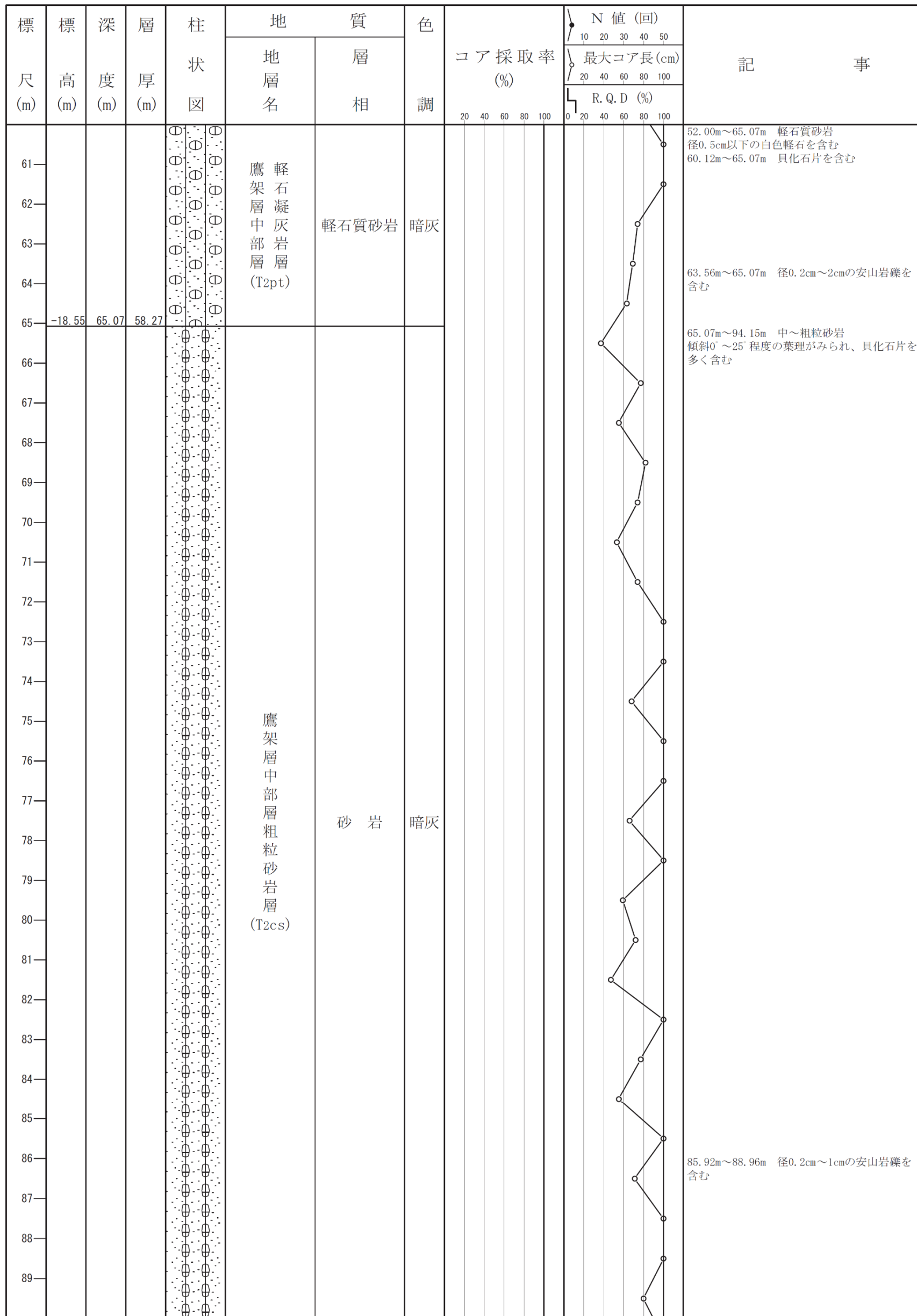


第9図 地質柱状図(2/6) (E0-52孔: 深度30m~60m)

孔名 E0-52

孔口標高 46.52m

掘削深度 G.L. -174.00m



第9図 地質柱状図(3/6) (E0-52 孔 : 深度 60m~90m)

孔名 E0-52

孔口標高 46.52m

掘削深度 G.L. -174.00m

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	柱状図	地質		色調	コア採取率 (%)	N 値 (回)		記事					
					地層名	層相			10 20 30 40 50	20 40 60 80 100						
91					鷹架層中部層粗粒砂岩層 (T2cs)	砂岩	暗灰	20 40 60 80 100	N 値 (回)		65.07m~94.15m 中~粗粒砂岩 傾斜0°~25°程度の葉理がみられ、貝化石片を多く含む 90.95m~94.15m 径5cm程度の比較的保存の良い貝化石を多く含む					
92																
93																
94																
95																94.15m~174.00m 粗粒砂岩 傾斜0°~25°程度の葉理が顕著であり、貝化石片を多く含む
96																
97																
98																
99																
100																
101																
102																101.56m~102.15m 径0.2cm~2cmの安山岩礫 や径2cm~5cmの貝化石片を含む
103																
104																
105																
106																
107																
108																
109																
110																
111										110.55m以深 貝化石片が多くなり、傾斜0°~25°の葉理が顕著になる						
112																
113																
114																
115																
116																
117																
118																
119																

第9図 地質柱状図(4/6) (E0-52孔 : 深度 90m~120m)

孔名 E0-52

孔口標高 46.52m

掘削深度 G.L. -174.00m

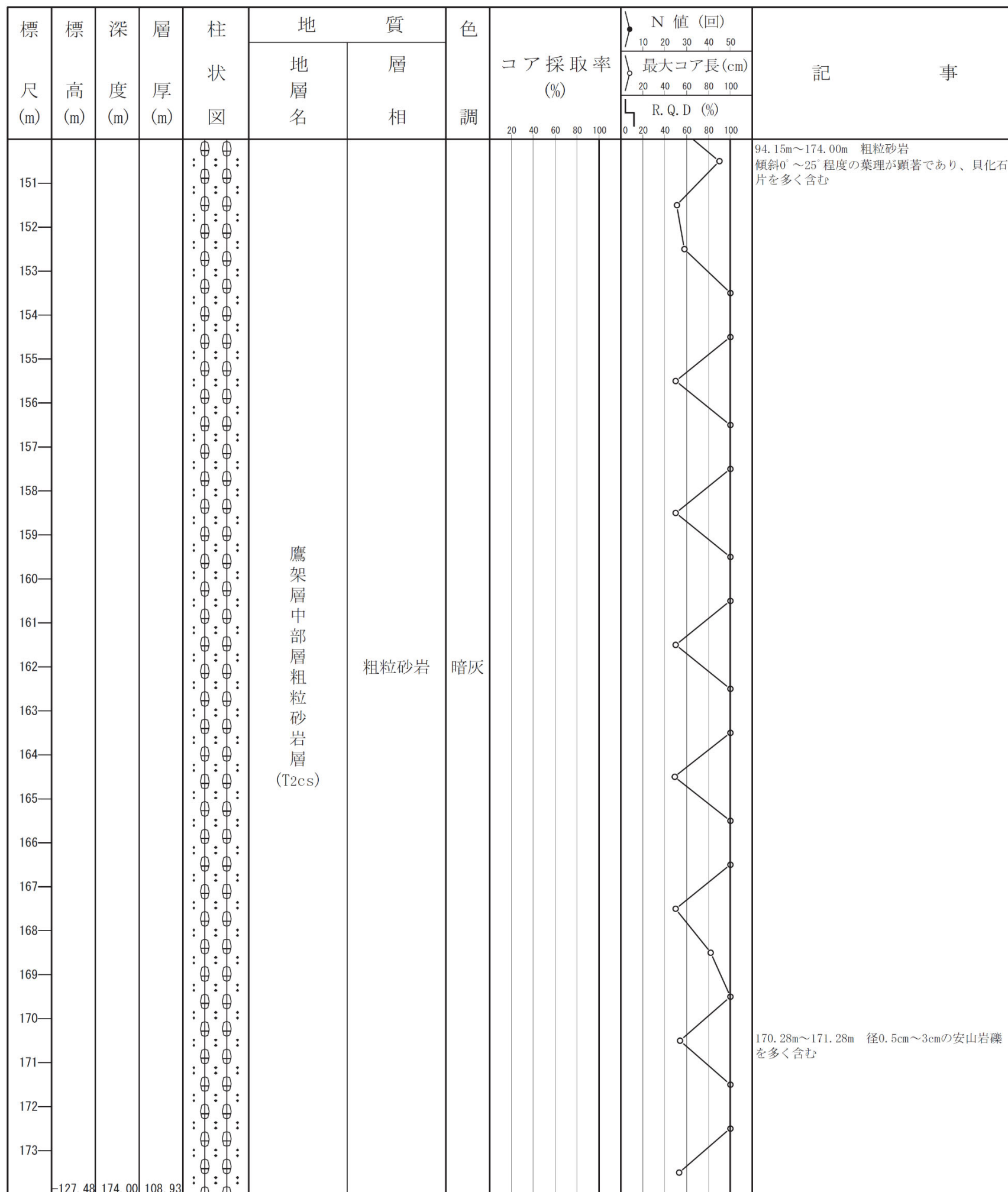
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	柱状図	地質		色調	コア採取率 (%)	N 値 (回)		記事				
					地層名	層相			10 20 30 40 50	最大コア長 (cm)					
								R. Q. D (%)							
								20 40 60 80 100	0 20 40 60 80 100						
121					鷹架層中部層粗粒砂岩層 (T2cs)	粗粒砂岩	暗灰				94.15m~174.00m 粗粒砂岩 傾斜0°~25°程度の葉理が顕著であり、貝化石片を多く含む				
122															
123															
124															
125															
126															
127															
128															
129															
130															
131															
132															
133															
134															
135															
136															
137															
138															
139															
140															
141															
142															
143															
144															
145										145.15m付近、145.50m付近 傾斜40°~60°の葉理がみられる					
146															
147										146.65m~148.41m 所々に径0.3cm~1cmの安山岩礫を多く含む					
148															
149															

第9図 地質柱状図(5/6) (E0-52 孔：深度 120m~150m)

孔名 E0-52

孔口標高 46.52m

掘削深度 G.L. -174.00m

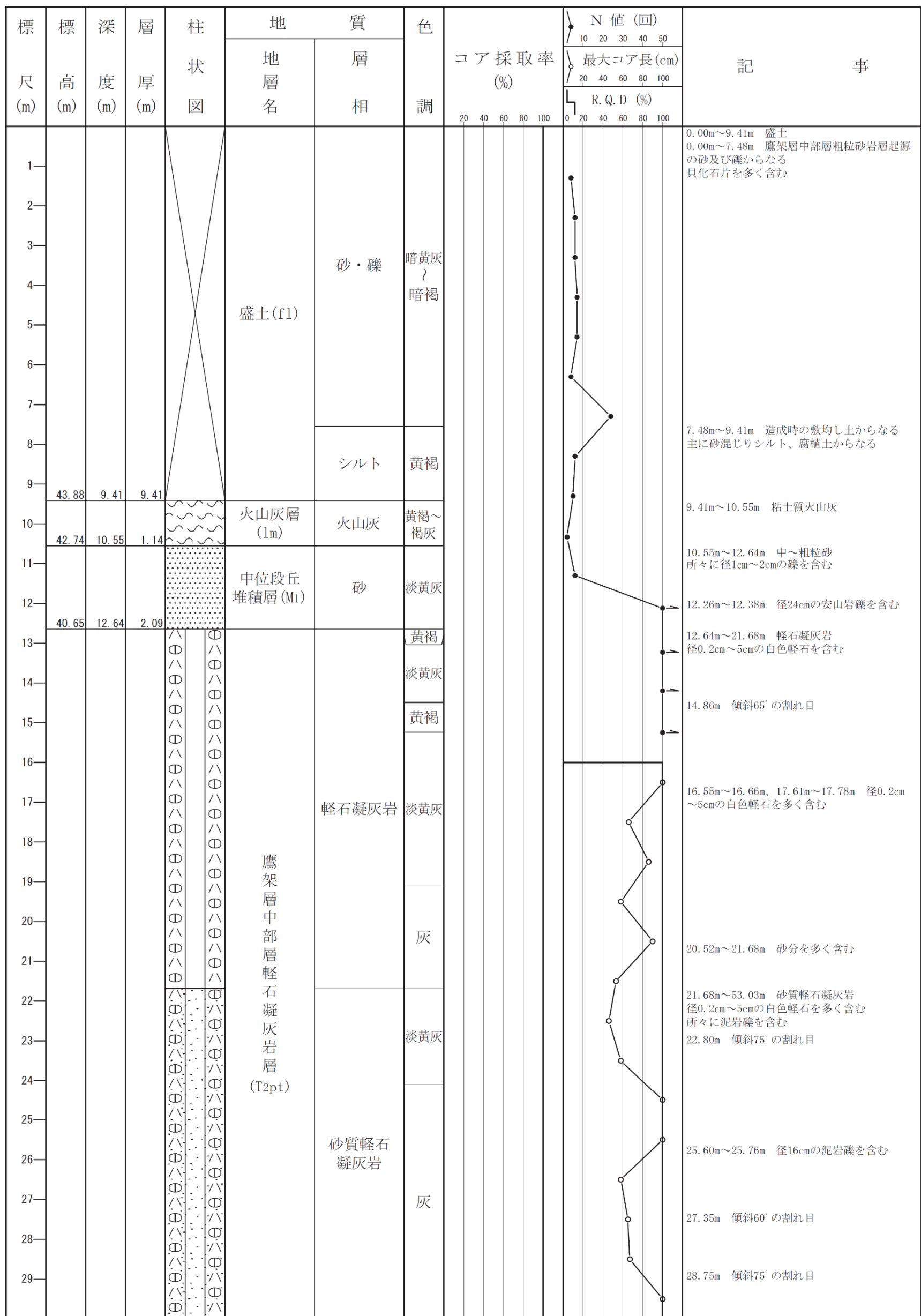


第9図 地質柱状図(6/6) (E0-52 孔 : 深度 150m~174m)

孔名 E0-54

孔口標高 53.29m

掘削深度 G.L. -111.00m

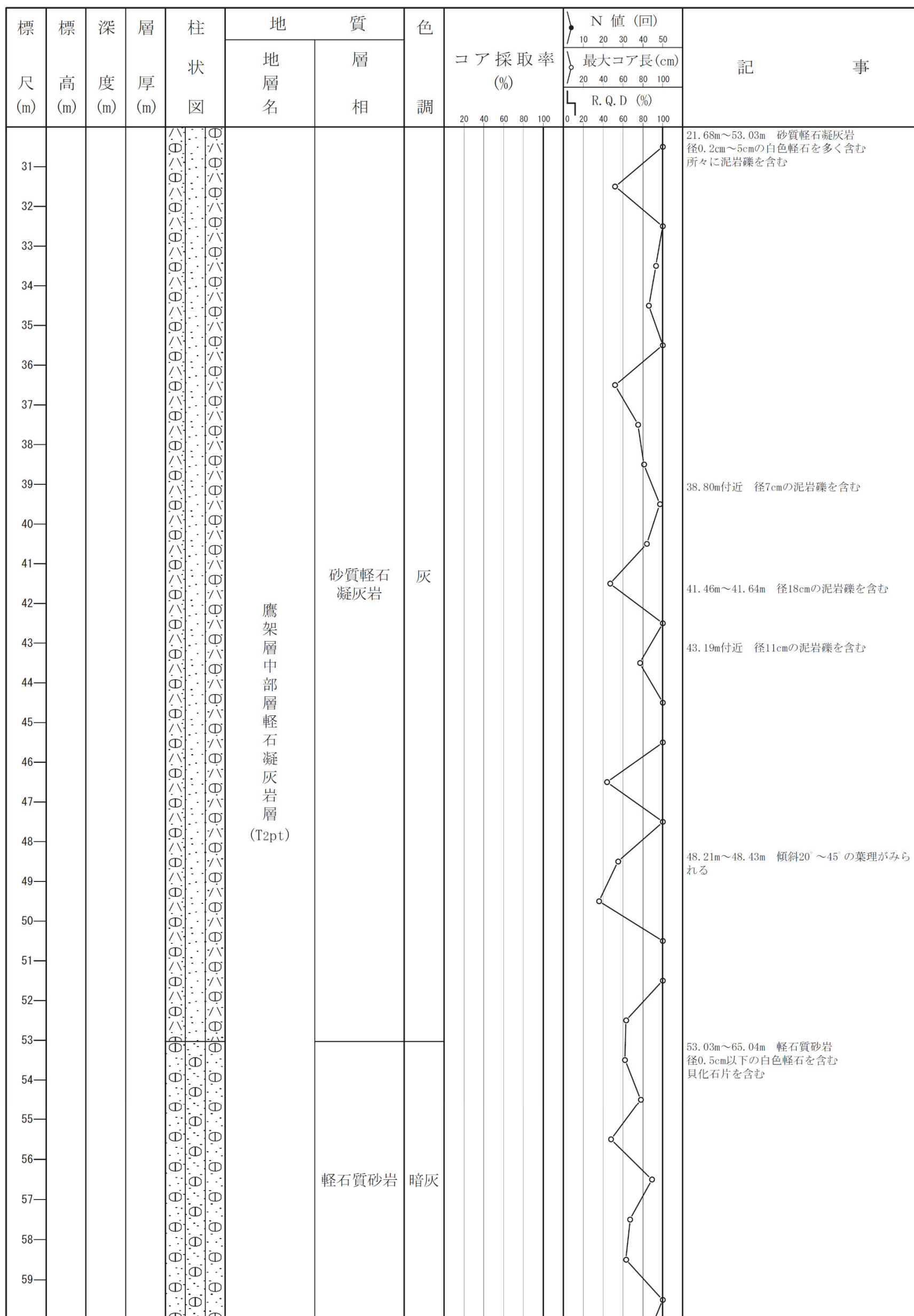


第10図 地質柱状図(1/4) (E0-54 孔 : 深度 0m~30m)

孔名 E0-54

孔口標高 53.29m

掘削深度 G.L. -111.00m

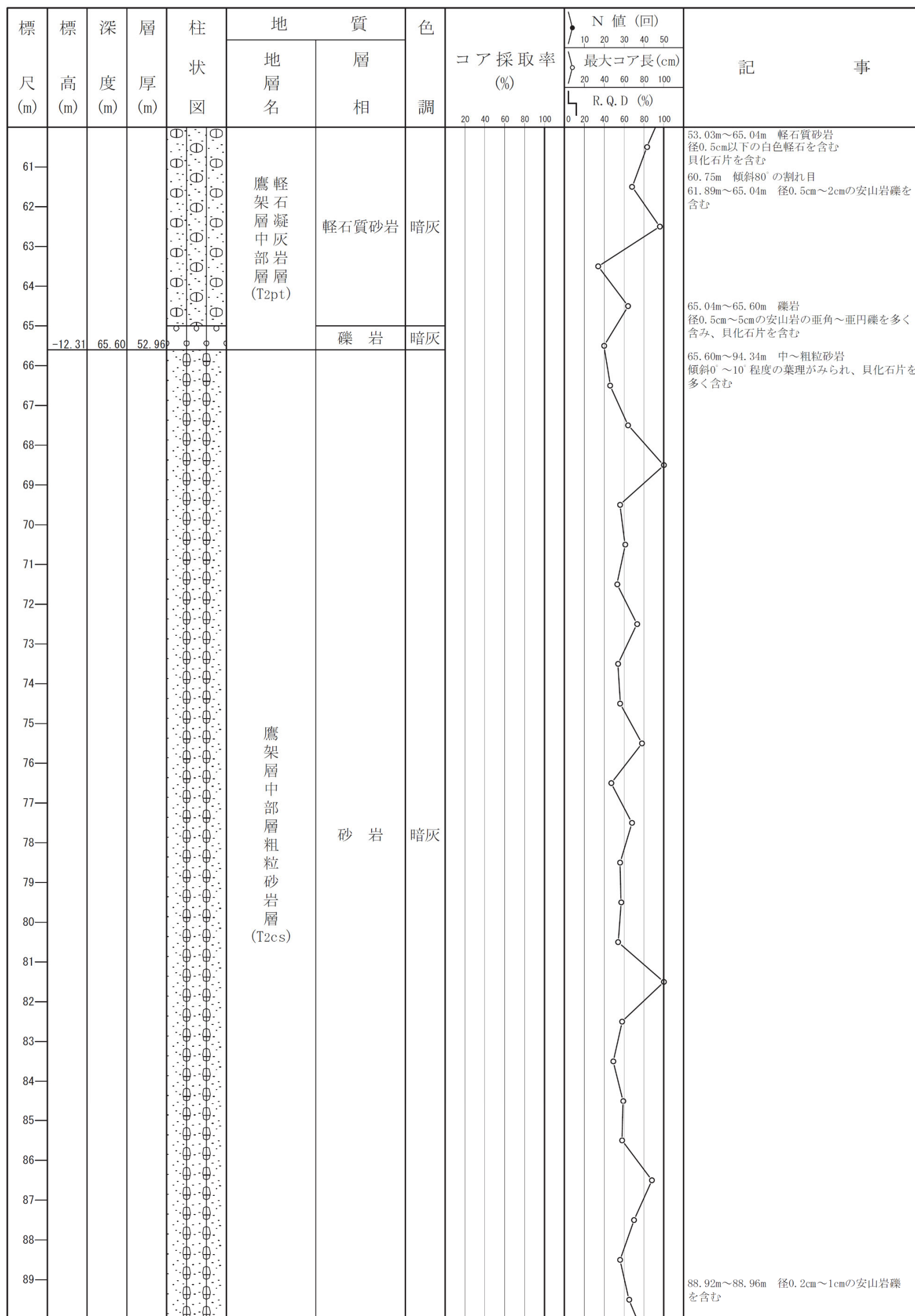


第10図 地質柱状図(2/4) (E0-54孔 : 深度 30m~60m)

孔名 E0-54

孔口標高 53.29m

掘削深度 G.L. -111.00m

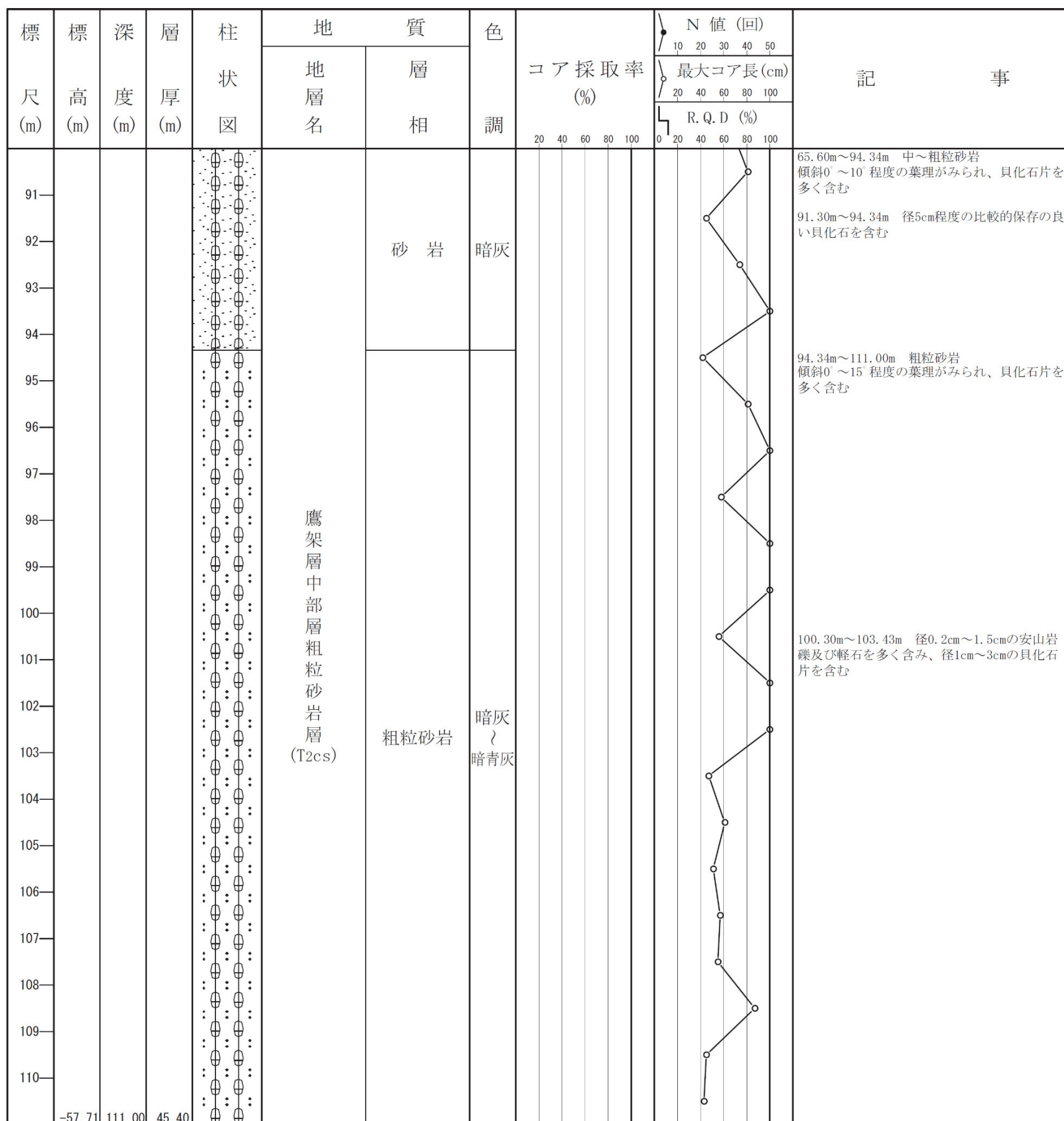


第10図 地質柱状図(3/4) (E0-54孔 : 深度60m~90m)

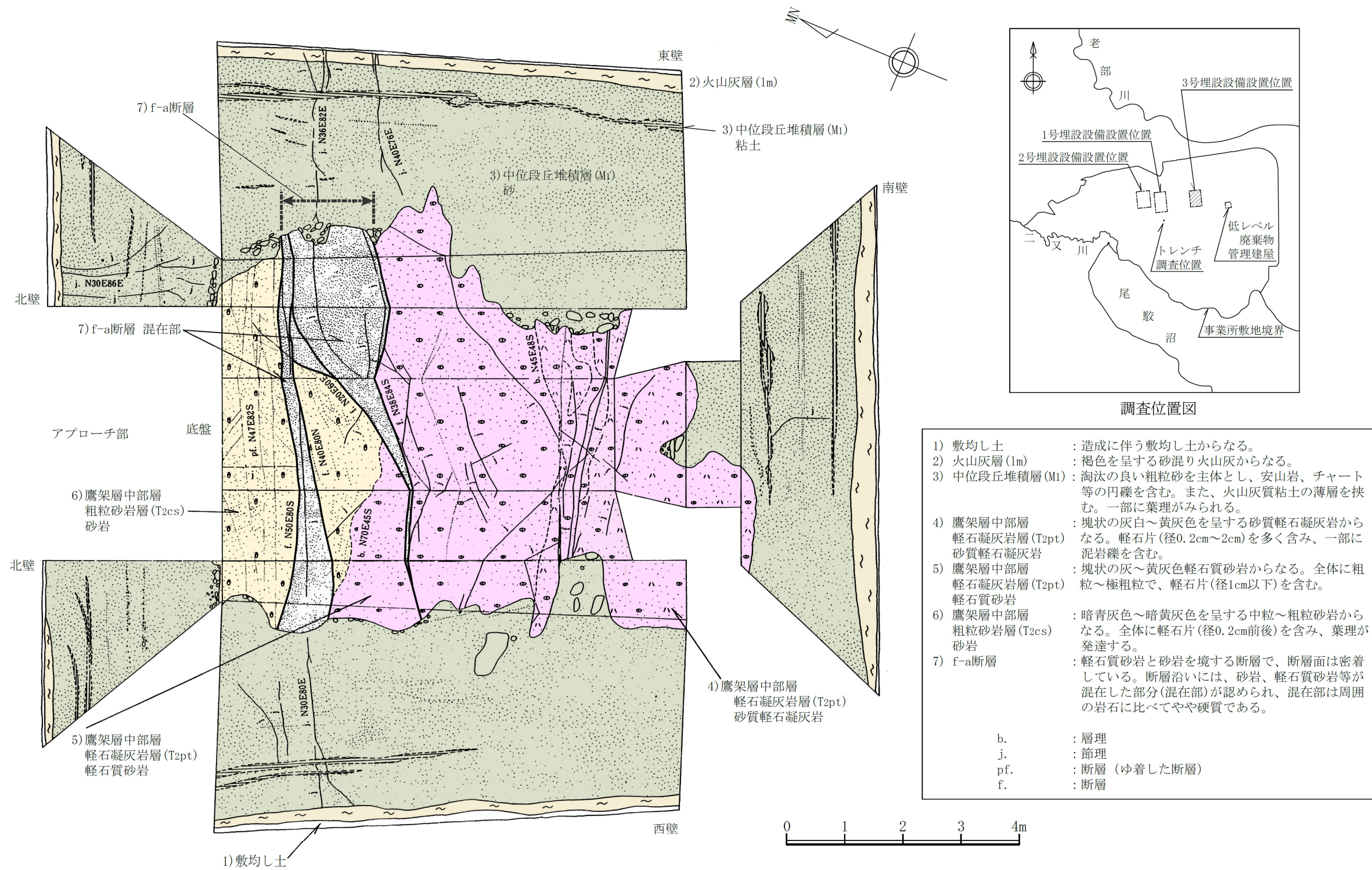
孔名 E0-54

孔口標高 53.29m

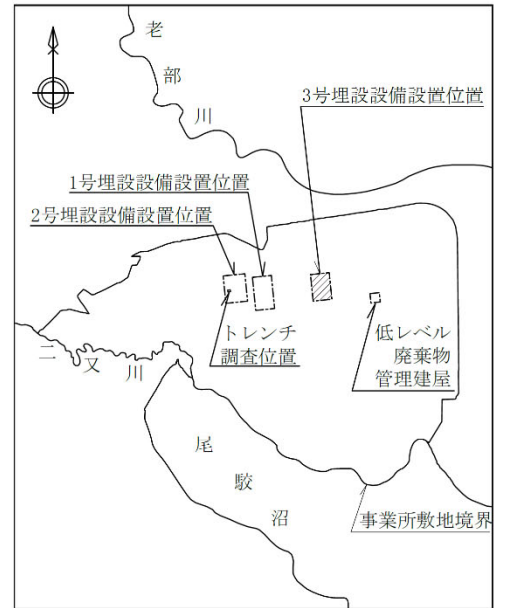
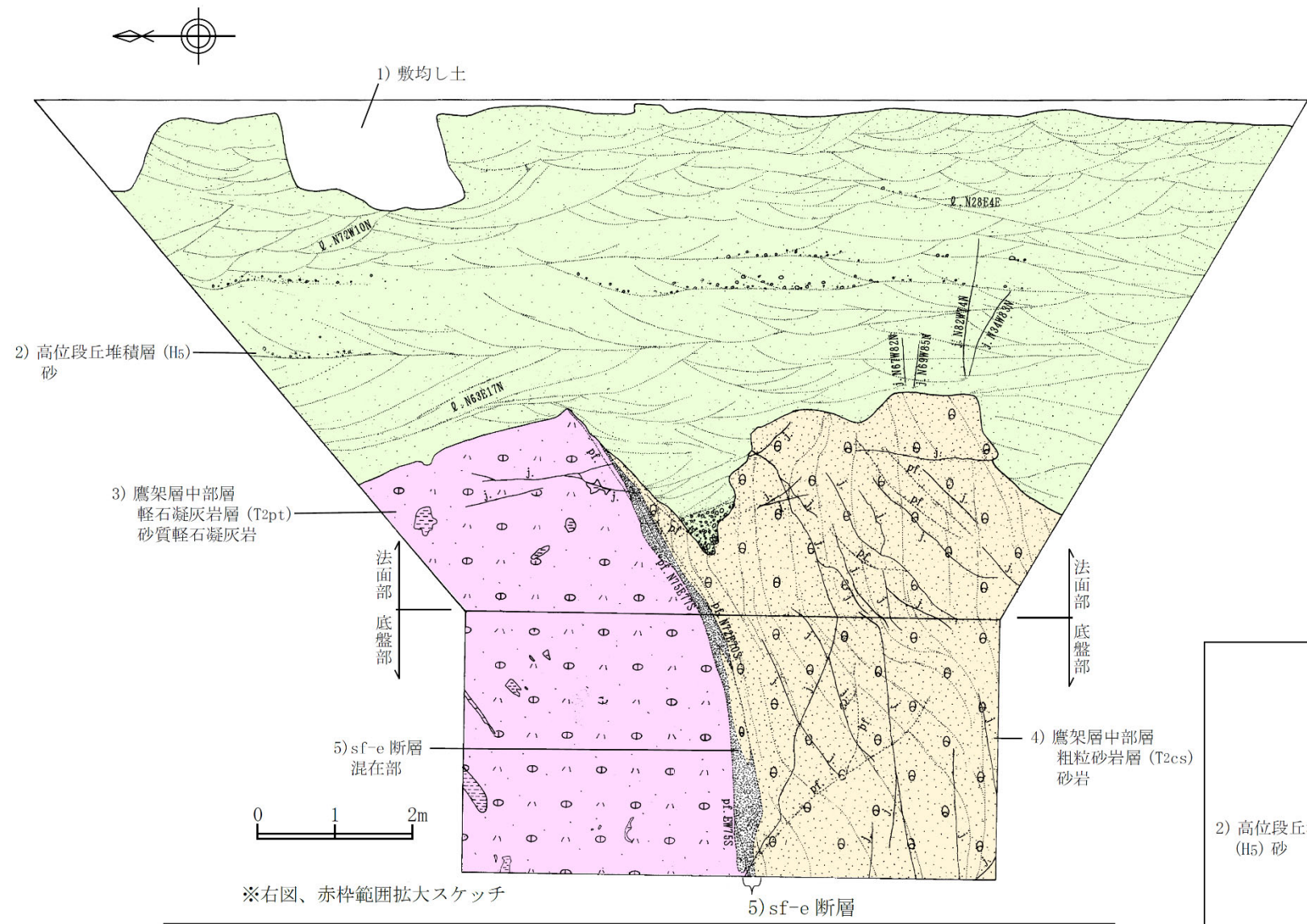
掘削深度 G.L. -111.00m



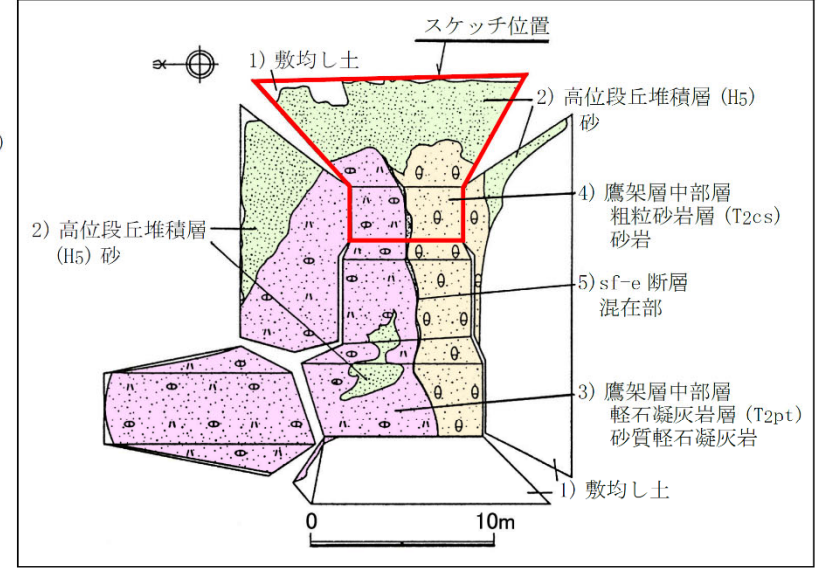
第10図 地質柱状図(4/4) (E0-54孔: 深度90m~111m)



第 11 図 トレンチ調査結果 (f-a 断層)



調査位置図



トレンチ形状及びスケッチ位置図

- ※右図、赤枠範囲拡大スケッチ
- | | | |
|---------------------------------|---|-------------------|
| 1) 敷均し土 | : 造成に伴う敷均し土からなる。 | 0. : 葉理 |
| 2) 高位段丘堆積層 (H5) | : 黄褐色～灰褐色を呈する中～粗粒砂からなる。所々に安山岩、チャートの垂角～垂円礫 (径 0.5cm～10cm) を含む。葉理がみられる。 | j. : 節理 |
| 3) 鷹架層中部層 軽石凝灰岩層 (T2pt) 砂質軽石凝灰岩 | : 塊状の灰白～黄灰色を呈する砂質軽石凝灰岩からなる。軽石片 (径 0.2cm～2cm) を多く含み、一部に泥岩礫を含む。 | pf. : 断層 (ゆ着した断層) |
| 4) 鷹架層中部層 粗粒砂岩層 (T2cs) 砂岩 | : 暗黄灰色を呈する中粒～粗粒砂岩からなる。軽石片 (径 0.2cm 前後) や貝化石片を含み、葉理が発達する。 | |
| 5) sf-e 断層 | : 砂岩、砂質軽石凝灰岩等が混在した部分 (混在部) からなる。周囲の岩石に比べてやや硬質である。 | |

第 12 図 トレンチ調査結果 (sf-e 断層)